

エスユーエス (コード 6554)

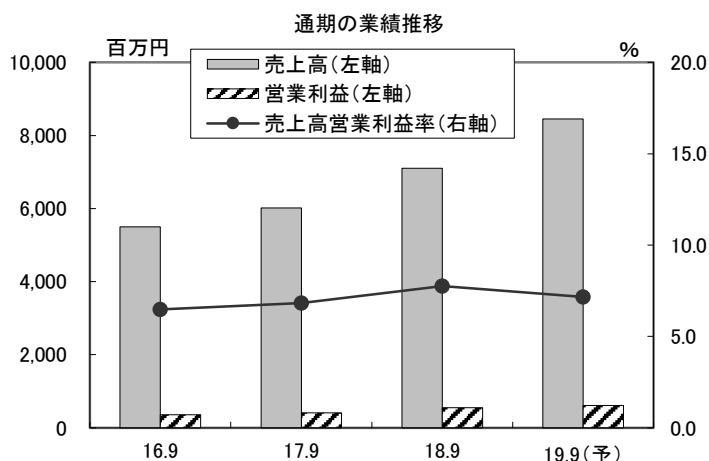
◆業績推移(連結) (19.9 予は会社側予想。18年3月に株式分割(1→4株)を実施)

決算期	売上高	営業利益	1株益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.9	5,498	356	35.4	0.0	412	▲82	11	919
17.9	6,014	411	37.8	0.0	304	▲617	696	1,303
18.9	7,106	551	41.0	0.0	422	592	▲139	2,179
19.9 予	8,455	606	41.3	0.0	-	-	-	-

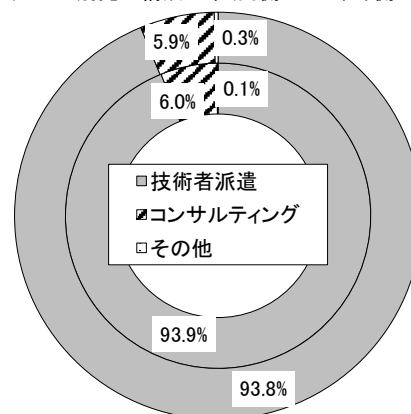
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (19.9 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
18.9	3,346	242	16.8	0.0	148	▲2	▲112	1,336
19.9 予	3,867	205	13.8	0.0	-	-	-	-

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



セグメント別売上構成比率(内側が17.9、外側が18.9)



18年9月期の業績概況…18年9月期の業績は、売上高71億600万円(17年9月期比18.2%増)、営業利益5億5,100万円(同34.1%増)、経常利益5億7,100万円(同42.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)3億5,400万円(同31.1%増)となった。売上高の9割を占める主力の技術者派遣事業に加え、コンサルティング事業についても好調に推移。利益面では、技術者人件費・外注費(約7億6,000万円)、人件費(約1億600万円)、広告宣伝費・採用広告費(約4,000万円)などのコストアップ要因が増収分(約10億9,100万円)で吸収され、大幅な増益になった。

セグメント別の売上高については、技術者派遣事業が66億6,400万円(同18.0%増)、コンサルティング事業は4億2,300万円(同16.8%増)、その他が1,800万円(同673.9%増)に伸びた。また、セグメント利益については、技術者派遣事業が5億2,300万円(同35.9%増)、コンサルティング事業が5,700万円(同35.7%増)、その他が3,000万円の損失(17年9月期は1,600万円の損失)となった。

技術者派遣については、大手製造業及びシステムインテグレーターにおける慢性的な人材不足により、特に新規大手製造企業からの受注を獲得。既存の顧客企業においても受注件数が堅調に推移し、高水準の稼働率を維持した。また、技術者の高付加価値な業務への配属が進捗したことに加え、チャージアップ(同一配属先での売上単価向上)、戦略的移行(配属先変更による売上単価向上)を通じ、受注単価が上昇した。

コンサルティング事業については、システムコンサルティングサービスでは、SAPをはじめとした大規模基幹システムにおいて機能拡張やグローバル展開案件が堅調に推移し、ビジネスコンサルティングサービスでは、17年9月期に受注したアセスメントツール販売、及びそれらに付随したコンサルティング案件などにより売上高が堅調に推移した。その他については、採用マッチングソリューション「SUZAKU」において、精度向上のためデータ検証に時間を費やし、また、多様化する顧客ニーズに対応するために機能拡張に伴う追加開発を行った結果、リリース時期の遅れにより低調となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、18年9月期末現在の現金及び現金同等物残高が21億7,900万円（17年9月期末比67.2%増）に増加した。営業活動CFでは、税金等調整前当期純利益が5億7,100万円

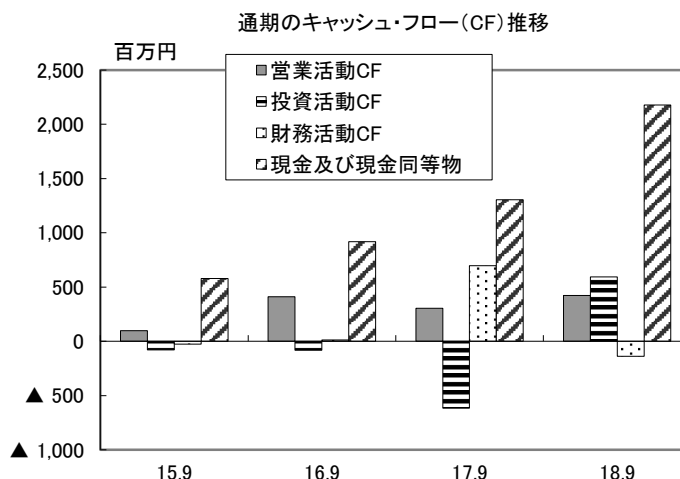
（17年9月期比43.5%増）、売上債権の増加額が1億5,100万円（同45.2%増）、未払金の増加額が8,700万円（同32.0%減）、法人税等の支払額が1億4,500万円（同14.2%減）となったことなどにより、営業活動による収入は4億2,200万円（同38.8%増）に拡大した。投資活動CFでは、定期預金の純減額が5億9,900万円（17年9月期は5億9,400万円の純増）となったことなどにより、投資活動による収入が5億9,200万円（同6億1,700万円の支出）に。財務活動CF

では、長短借入金の借入れ、返済による差引支出額が1億3,900万円（17年9月期比51.1%増）、株式の発行による収入が500万円（同99.3%減）となったほか、17年9月期に1億2,600万円あった自己株式の処分による収入が当期には無かったことなどにより、財務活動による支出が1億3,900万円（17年9月期は6億9,600万円の収入）となった。

19年9月期の業績見通し…19年9月期の通期業績については、売上高84億5,500万円（前期比19.0%増）、営業利益6億600万円（同10.0%増）、経常利益6億800万円（同6.6%増）、当期純利益3億5,900万円（同1.5%増）の見通し。

セグメント別の売上高予想については、技術者派遣事業が77億8,600万円（同16.8%増）、コンサルティング事業が4億5,100万円（同6.7%増）、その他が2億1,800万円（同1,111.1%増）に。また、セグメント利益予想については、技術者派遣事業が4億7,000万円（同10.1%減）、コンサルティング事業も4,600万円（同19.7%減）に減少する見通しである一方、その他は8,900万円（前期は3,000万円の損失）へ黒字転換の見込みとなっている。

なお、今期の第2四半期累計期間（18年10月～19年3月）については、売上高38億6,700万円（前年同期比15.6%増）、営業利益2億500万円（同15.0%減）、経常利益2億600万円（同16.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億1,900万円（同17.0%減）の見通し。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。